

シラバス情報

授業方法	講義 ・ 実験 ・ 実習		
系 列	実 習		
科 目 名	シャシ整備		
必修・選択	必修科目 ・ 選択科目		
対象学科	二級自動車整備科二輪自動車整備士コース		
年次学期・曜日・時限	2年前期	・ 月～水曜日	・ 1時限～8時限
時 限 数	136. 8時限（期末試験を除く）		
担当教員名	松原 吉彦・川向 芳子		
実務経験	有 ・ 無		
	国土交通省に認証された事業場における保守・点検・分解・組立など自動車整備士としての経験を活かし、二輪自動車のシャシ関連において整備を行う上で必要となる基礎知識と技術についての実習を実施する。		
授業の目的	二輪自動車のシャシ関連において、整備を行う上で必要となる基礎知識と技術の習得を目的とする。		
テキスト	① 実習テキスト		
授 業 計 画			
授業回数	テーマ	内容・方法等	使用テキスト 範囲
第1回	ブレーキ装置分解組立て作業1	ドラム式ブレーキ装置の分解組立て作業の習得 ブレーキ調整方法の習得	
第2回	ブレーキ装置分解組立て作業2	ディスク式ブレーキ装置の分解組立て作業の習得 エア抜き作業の習得	
第3回	フロント・フォーク分解組立て作業1	ボトム・リンク式フロントフォークの分解組立て作業の習得	
第4回	フロント・フォーク分解組立て作業2	テレスコピック式フロントフォークの分解組立て作業の習得 オイルレベルの調整方法、オイルの性質を学習する	
第5回	ステアリング・ステム分解組立て作業1	ステアリング・ステムの分解組立て作業の習得 プレロード調整方法の習得	
第6回	ステアリング・ステム分解組立て作業2	ステアリング周りのワイヤリングを含めた確実な組付け作業の習得	
第7回	クラッチ機構分解組立て作業	湿式多板コイルスプリング式クラッチの分解組立て作業の習得 ディスクの摩耗状態の測定、オイルの役割の習得	
第8回	ドライブ・チェーン整備	ドライブ・チェーンの整備及びカッティングに付随する作業の習得 チェーンのタイプ、サイズの確認方法を習得する	
第9回	ベルト・ドライブ機構	ベルト・ドライブ式の構成部品確認及び整備技術の習得 変速状態の確認、ベルトの種類を知り、摩耗状態の測定方法を習得する	

第 10 回	シャフト・ドライブ機構	シャフト・ドライブ式の構成部品確認及び整備技術の習得 減速比の確認、ファイナルギヤオイルの交換を習得する	
第 11 回	カートリッジ式フロント・フォーク	カートリッジ式フロントフォークの構成部品確認及び分解組立て作業の習得 フリーバルブタイプとの作用の違いを習得する	
第 12 回	外装（スクーター）	ビッグスクーターの外装脱着作業における注意点を確認し作業技術の習得をする	
第 13 回			
第 14 回	スポーク・ホイール	スポーク・ホイールにおけるスポーク交換作業の技術の習得 バランス、振れ取り作業の習得 リム形状の種類を知る	
第 15 回			
第 16 回	ハーレーダビッドソン実習	H・Dのモデルの識別 車両システムの把握 エンジンの分解組立ての習得 車体回りの調整方法の習得 専用診断機での車体データの確認、及び故障探求方法の習得	
第 17 回			
第 18 回			
	ステップ試験（中間試験）	第1回～第18回までの授業内容に関する実技試験	
	期末試験	第1回～第18回までの授業内容に関する実技試験	
到達目標	全て実車ででの分解組立て作業であり、一つ一つの作業において基礎の確認を行いつつ、現場での作業内容につなげていくことを目標とする。		
成績評価方法	平常点（小テスト、レポートやノートの提出とその評価、出席及び授業態度）、ステップ試験（中間試験）並びに期末試験を合算して行う。		
定期試験受験資格	開講された全時限に出席し、レポート・ノートの提出が完了している者。 欠席した時限がある場合は、補講も完了している者。		
成績評価基準	<p>成績評価は、期末試験の点数が40点を満たした上で、100点を満点とする整数について、次の割合で行う。</p> <p>中間試験の点数 30% 期末試験の点数 40% 平常点 30%</p> <p>上記の割合によって学期末の評点が60点以上である場合、以下によって評価する。</p> <p>60～69点＝可、70～79点＝良、80～89点＝優、90点以上＝秀</p> <p>60点未満の場合、再試験を行い、試験点のみで60点以上のとき履修を認定し、成績は60点＝可とする。</p>		
成績評価できない場合の基準	全講義を終了時点の出席率が50%を満たしていない場合、又は、成績評価が60点未満の場合。		